

- 1 伊勢市における外国人住民対象防災説明会
- 2 事業報告
- 3 事業報告
- 4 MIEFからのお知らせ

## 伊勢市における外国人住民対象防災説明会

**大雨だ! 地震だ! 津波だ! …あなたならどうしますか?**

平成25年度より、伊勢市から「外国人をサポートするための避難所運営訓練事業」を受託し、発生時の混乱やトラブルを回避し、外国人を含む地域住民がよりスムーズな行動が取れるようにすることを目的とした研修会等を企画・実施しています。

今年度は12月9日に伊勢市在住・在勤・在学の外国人を対象とした防災説明会を伊勢市防災センターにて開催しました。中国・ブラジル・ミャンマー・ベトナム等の外国人住民を中心に50人が集まり、①災害や防災の基礎知識を身に付けるための講義と、②非常時に身を守るための体験学習に参加しました。

①については、伊勢市危機管理課より伊勢市の地形的特徴や過去に同地域で起きた災害について説明がありました。また、地震が起きた時に避難をするタイミングや、正しい情報を知る方法について、わかりやすく紹介されました。

②については、消火器による初期消火や煙が充満した暗闇から避難する方法、浸水した自動車からの脱出等について体験しました。最後に、AEDによる救命措置の講習も受けました。



▲浸水した車から出るのは大変!



▲子どもたちもAED講習に興味津津

子どもたちと一緒に楽しく体験しながら、災害について考える貴重な機会となり、参加者からは感謝の言葉もいただきました。以下に、参加者の感想を一部ご紹介します。

### 参加者からの声

- 防災についての幅広い知識を得ることができて、とてもいい勉強になった。
- 暗闇から脱出する体験で、一緒に参加した母親と途中ではぐれた。これが本当の災害じゃなくて良かった。また母親と参加したい。
- 浸水した車のドアは非常に重くて、開けるのが難しかった。先日台風があった時、近くの川の水があふれたけれど、実際にこれが起きたらとても怖いと思った。参加して良かった。

### 台風21号による被害への対応について

平成29年台風21号に伴う災害により、三重県内でも多数の被害が生じました。MIEFは、伊勢市の了解を得たうえで、市教育委員会、市内大学、観光協会、日本語教室、外国人技能実習生受入機関等に問合せをし、外国人住民の被害状況を確認しました。

また、台風22号が続いて接近していたこと等から、伊勢市のHPで、英語、中国語、ポルトガル語により防災無線の情報が入手できることを、MIEFのHP、facebook等で情報提供し、周知に努めました。

## 親と子の多言語おはなし会

7月2日、外国につながる親子を対象にした「第2回親と子の多言語おはなし会」を白子コミュニティセンターで開催しました。開催にあたっては、鈴鹿市のボランティアグループ「FUNFUNサロン」様にご協力いただき、ブラジル・中国・ベトナムにつながる親子65人が集まりました。今回は七夕をテーマにした活動を考え、「たなばたセブン」という絵本を日本語・ポルトガル語・中国語で読みました。そのあと、7月7日に雨が降らないようにてる坊主を作り、願いごとを書いた短冊を笹に飾りました。最後に中国語とポルトガル語の「きらきら星」の歌に合わせて、みんなでダンスをしました。



▲きれいな七夕飾りができました

第3回は、12月16日に鈴鹿市労働福祉会館で実施しました。ペルーやブラジルにつながる親子20人が参加し、三重の民話「だんだらぼっち」を楽しみました。大きな紙で帽子を作り、思い思いの「だんだらぼっち」の顔を描きました。そしてみんなで「しあわせなら手をたたこう」を歌いました。

このような多言語による読み聞かせ活動は、今年で4年目になりますが、歌やダンス、折り紙や工作なども取り入れたユニークな内容は、毎回非常に好評をいただいています。一方で、参加者同士が交流できる時間がもっとほしい、母国の絵本も読んでほしい、などの要望もあります。今後もこれまでの実績をもとに、地域の外国人住民の声を取り入れ、より多くの外国につながる親子が楽しめる、多彩で魅力的な会を創造していきたいと思えます。



▲みんなで「だんだらぼっち」ポーズ

## 韓国高校生交流事業

10月23日から27日まで、韓国聖南高校の生徒12人と教師3人が来県し、津商業高校の生徒と交流しました。津商業高校の学校祭では、聖南高校の生徒がミュージカルを上演し、かっこいいダンスと見事な歌声に拍手や歓声が沸き起こりました。また、津商業高校生徒の自宅にホームステイすることで、日本の家庭や文化を体験し、充実した5日間となりました。

11月11日から16日までは、韓国養正高校の生徒8人と教師1人が昂学園高校の学生寮に滞在し、授業や部活動に参加しました。レーザークラフト制作や茶道を体験し、地域で開催された「どんとこい大台まつり」や鳥羽水族館を見学しました。昂学園高校生徒との寮生活を通して、日本の文化や学生生活を存分に楽しみ、実りのある交流事業となりました。



◀聖南高校によるミュージカル

## 実践研究会

今年度は、7月24日と11月23日に、外国につながる児童生徒の教育に携わる県内の教職員および日本語学習支援者等を対象とした、教育実践研究会を開催しました。

第1回は、東京外国語大学大学院国際日本学研究院准教授の菅長理恵さんを講師にお迎えし、「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLAの使い方〔書く〕編」として、お話しいただきました。菅長さんはDLAの作成に携わった方であり、DLAの効果的な活用方法について詳しくご説明いただきました。講義の中では具体的な事例もあり、DLAへの理解を深めることができました。

第2回目は、「県内の取り組みから一津市における外国人児童生徒のための取り組みについて」として、津市教育委員会、津市立高茶屋小学校、津市立東橋内中学校、三重県立みえ夢学園高校から発表いただきました。各現場での取り組みは大変勉強になり、またそこで感じられている課題を共有することで、地域で連携して取り組むことの大切さを実感しました。

第1回、第2回ともに会場が満員になるほど多くの方にご参加いただきました。来年度以降も皆さまにご満足いただけるような企画を考えたいと思えます。



◀高茶屋小学校からの発表の様子  
劇を用いて学校の取り組みを分かりやすく楽しく発表いただきました



## 外国人への医療を考えるセミナー

最近、訪日・在日外国人の増加やグローバル化の進展等により、医療機関における外国人患者対応の体制整備が求められています。10月21日にアスト津にて、国が行う外国人患者受入れのための環境整備にかかる事業について理解を深めることを目的としたセミナーを開催し、医療従事者や医療通訳者等35人の参加がありました。

まず、一般財団法人日本医療教育財団から、「厚生労働省による外国人患者の受入れに関する事業」についてご説明いただいた後、公立甲賀病院より外国人患者受入れ環境整備事業の取り組みについて、桑名東医療センターより医療機関における外国人患者受入れの取り組みについての事例紹介をしてい



▲意見交換会の様子

だきました。その後の意見交換会では、グループ毎に質疑応答や今後必要と思われる取組みについて話し合いました。

## 災害時外国人サポーター養成研修

災害発生時に外国人住民を支援するボランティアの養成を目的とした研修を1月27日に志摩市にて開催しました。

中越沖地震や東日本大震災の時に外国人の支援活動に携った講師をお招きし、災害時に外国人住民が直面する課題、必要とされる支援など、支援者に必要な知識や心構えについて学びました。

その後の実践では、仮想の避難所を設置し、「外国人避難者」として参加した地元の外国人住民の対応を行いました。日本語が分からない外国人にどう災害情報を伝えるか、相談に対応するかを絵表示や多言語表示、翻訳アプリ等を利用して懸命に情報を伝える姿が見られました。

参加者からは、「実際の外国人相手だったのであせったが、対応してみれば絵で伝えることができた」、「工夫次第で外国人の方にも災害情報を伝えられる」などの意見があり、いざという時には実際に外国人の支援活動に携わることが期待されます。



▲外国人避難者対応の様子

## 外国につながる子どもたちを見守る連携研修会

最近、外国につながる子どもたちの発達について、「発達の問題なのか、日本語習得の問題なのか判断が難しい」、「発達検査の際の通訳を依頼したい」等の相談が増加しています。

このため今年度は、「外国につながる子どもたちの発達障がい」をテーマとしたところ、当初定員の40人を大きく超えるお申込みがあり、急遽定員を増やしました。皆さんの関心の高さ、あるいは本テーマについて課題をお持ちであることがうかがえます。

当日は、金沢大学国際教育機構准教授の松田真希子さん、NPO法人国際社会貢献センター中南米コーディネーターの森和重さん、同センターブラジル教育支援プロジェクトスタッフの柴崎敏男さんから、本年度実施の「外国にルーツをもつ特別支援学級在籍児童の複言語能力に関する研究」についてお話をいただきました。

日系CLD（=Culturally and Linguistically Diverse Students/両親が非日本語母語話者、家庭内言語が日本語ではない）児童に対する知能検査については、児童の得意なほうの言語で検査が行われていないこと、複数言語で検査が実施されていないため、障がいのありなしの判定が難しいと発表がありました。

また、松田先生の研究によれば、特別支援学級に日系ブラジル人児童が多く在籍している理由として、幼児期に十分な認知的成長が促されていないこと等があげられ、絵本などの読み聞かせが重要であること、家庭での十分な会話が大切であること等を述べられました。

平成30年度も、引き続きこの課題について、専門家のアドバイスをいただきながら検討し、家庭や教



▲研修会の様子

育現場等で有効な取り組みを具体的に提示できるよう努めていきたいと思えます。

## 伊勢市国際交流フェスティバルが 開催されます。

国際交流団体等によるブース出展、世界をめぐる映像と音楽による「地球のステージ」等で、様々な国の文化に触れるイベントです。MIEFもブース出展します。ぜひお越しください。

と き：2018年3月4日(日) 10:00～16:00

と ころ：伊勢市ハートプラザみその  
(伊勢市御園町長屋2767)

# MIEF からのお知らせ

## ようこそMIEFの輪へ

皆様の温かいご支援ありがとうございます。  
(平成29年10月1日~30年1月31日ご入金分。順不同・敬称略)

**団体会員：**合資会社黒川印刷、公益財団法人ラボ国際交流センター津支部、学校法人皇學館、一般財団法人三重YMCA、伊藤印刷株式会社

**個人会員：**柿市航樹、近藤玄道、一見奉雄、川西みどり、安藤和紀、岩並正見、高田夏衣、牧戸メリージェニー、塚本紘一郎、正路真一、稲葉嘉久、生川哲也

**パートナー会員：**松井優美、太田清、陳艶、窪田紀子

## インターン生紹介

今年度MIEFではインターンシップとして、10月15日と21日に県立松阪商業高校の2年生5名を受入れました。MIEFのホームページに、インターン生の紹介記事を掲載しています。ぜひご覧ください。



◀松阪商業高等学校 2年生 左から、  
フベロ ジャスパー トモマツさん、  
張 唐怡 (ざん たんい) さん、  
アトン マージョリー モンティベスさん、  
浄内 朋子 (じょうない ともこ) さん、  
ルズン クリスティン ハンナ プyson さん

## 三重県私費外国人留学生 奨学金奨学生の集い

平成29年10月15日、「三重県私費外国人留学生奨学金奨学生の集い」を開催しました。新奨学生5人に奨学金交付決定通知が授与され、高田短期大学のバトバヤル アリオンゾルさんが留学生を代表して抱負を述べました。

その後、元奨学生で現在青山商事(株)に勤めているリュウ レイレイさんより体験談と後輩たちへの激励の言葉がありました。また、外国人留学生の就職支援を行う名古屋外国人雇用サービスセンターの外国人労働者専門官 犬飼 慎一さんより日本企業が留学生に求めていること、日本の就職活動の特徴などをテーマにした講義があり、最後に参加者全員で意見交換会を行いました。



◀奨学生の集いの参加者との記念写真

## ひろがれMIEFの輪

三重県では、県内出身で海外に留学している方や三重県内の大学で勉強されている外国人留学生を対象に、奨学金を支給しています。今回はその奨学生の中から、オランダ・アムステルダム音楽院に留学中の中村 栄宏 (なかむら ひでひろ) さんに留学生活について教えていただきました。



オランダ  
アムステルダム音楽院  
リコーダー専攻  
中村 栄宏さん  
ひでひろ

現在留学しているオランダ・アムステルダム音楽院リコーダー科のカリキュラムは、授業とレッスンとの2つに大別され、ともに英語で行われます。授業は、科目ごとに基本的に週1回、集団で講義を受ける形です。日本の大学とは異なり、一般教養などの音楽と関係ない授業はなく、音楽理論や音楽史、ソルフェージュ(音楽の基礎能力トレーニング)などの科目を受講します。レッスンは毎月、リコーダーの実技に関するすべてが1週間でまとめて行われます。通常ならば週1回ペースで行われる個人レッスン、アンサンブルレッスン、さらにはコンサートまでが凝縮されてしまうので、準備がとても大変ですが、レッスンがない期間には練習時間が多く確保でき、難しい大規模な曲を準備できる利点があります。このレッスンウイークに向けた練習が、私の生活の中心です。



▲アムステルダム音楽院での演奏風景

この学校の特徴は、2人の素晴らしいリコーダー科の教授から毎月レッスンを受けることができ、リコーダーの勉強=古楽となることが多い中、古楽・現代曲を均等なバランスで学べることです。また、他の大学と比べ学生数が多いため、全員でルネサンス時代の楽器を用い(通常知られているリコーダーの形は後期バロック時代のもの)、今年度は総勢15人での合奏に取り組んでいます。世界的に見ても珍しい合奏が授業内に組み込まれていることも、アムステルダム音楽院ならではの魅力的な体験です。

開館案内 開館：月～金 9：00～17：00/閉館：土・日・祝日・年末年始

対応言語 ポルトガル語・スペイン語・英語・フィリピン語

発行 (公財)三重県国際交流財団(MIEF)

〒514-0009 三重県津市羽所町700番地 アスト津3階 TEL 059-223-5006 FAX 059-223-5007  
ホームページアドレス：http://www.mief.or.jp Eメールアドレス：mief@mief.or.jp

Facebook:公益財団法人三重県国際交流財団(MIEF) Twitter:@MIEFsince1991

